

3 職業関係

(1) 職場生活の満足度・職業生活の重視点

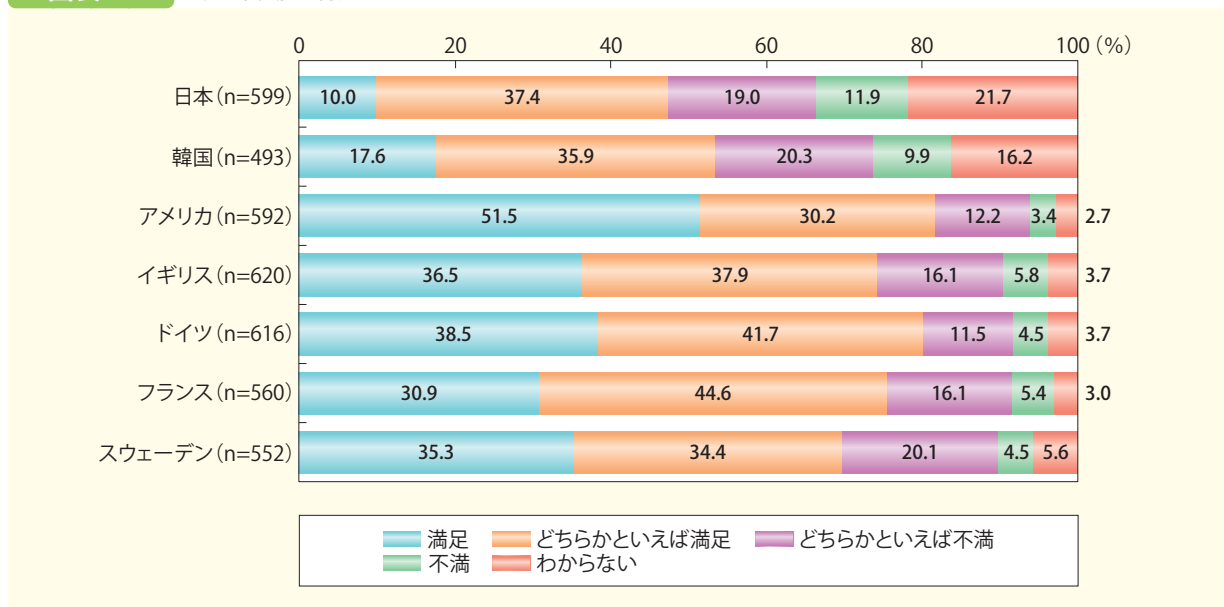
「今の職場に満足していますか」との間に、日本の若者で、「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答した者の割合は47.4%であり、同様の回答をした諸外国の若者と比べて最も低かった。(図表25)

また、日本の若者が「仕事を選ぶ際に重視すること」のうち、選択した者の割合が最も高かったのは、「収入」の70.7%であり、次いで高かったのは、順に、「仕事内容」の63.1%、「労働時間」の60.3%、「職場の雰囲気」の51.1%であった。

また、平成25年度の調査時と比べて、選択した者の割合が多かった上位3項目は、「収入」、「仕事内容」、「労働時間」で変わらないが、「労働時間」を選択した者の割合は8.6ポイント高かった。また、「自分を生かすこと」、「自分の好きなことや趣味を生かせること」を選択した者の割合はそれぞれ9.9ポイントと4.0ポイント低かった。(図表26)

このように、日本の若者は、平成25年度の調査時と比べて、仕事を選ぶ際に自己実現につながるかどうかを重視する者の割合が低下していた一方で、労働時間など、私生活の豊かさに結び付く労働条件であるかどうかを重視する者の割合は上昇していた。

図表25 今の職場に満足しているか



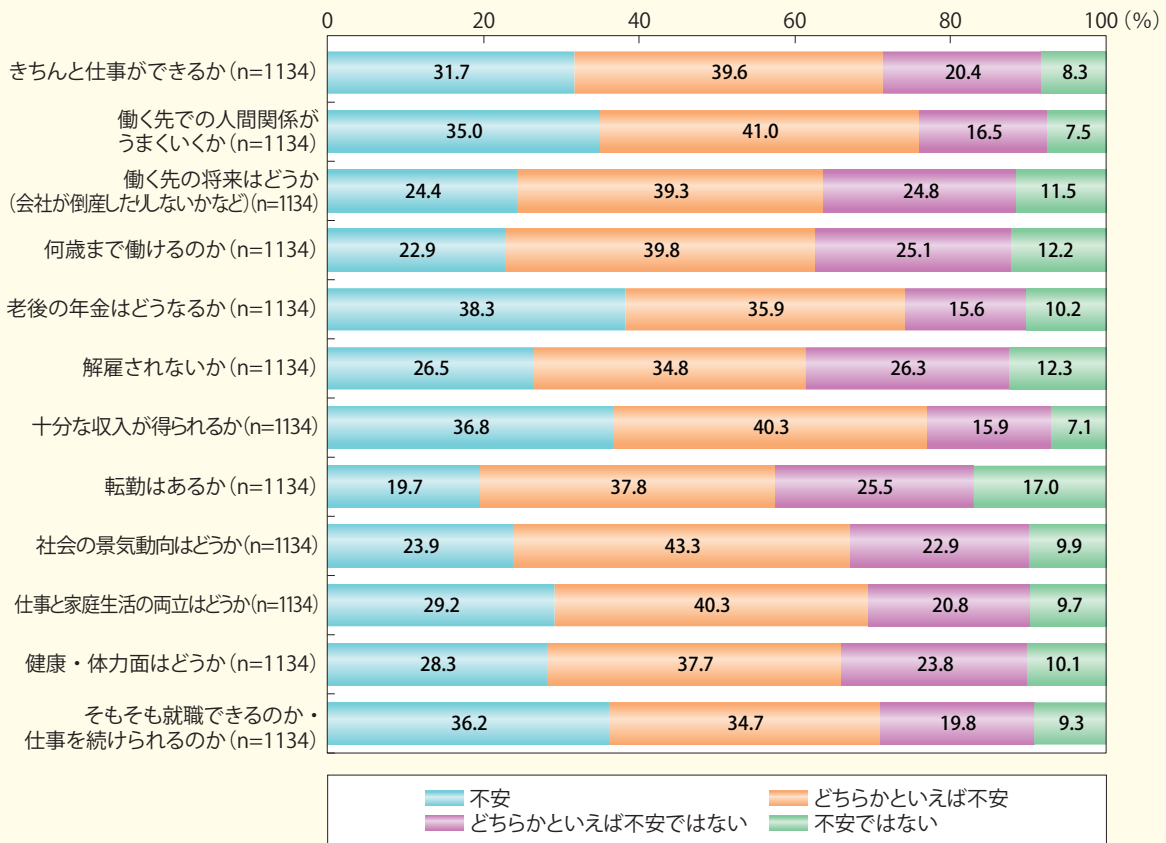
図表 26 職業選択の重視点

	日本 (n=1134)	韓国 (n=1064)	アメリカ (n=1063)	イギリス (n=1051)	ドイツ (n=1049)	フランス (n=1060)	スウェーデン (n=1051)	平成25 年度調査 (n=1175) (%)
収入	70.7	61.9	70.0	62.7	68.5	63.2	62.4	66.6
労働時間	60.3	54.9	63.4	64.2	61.4	44.3	58.2	51.7
通勤の便	38.7	36.2	41.4	43.8	53.3	31.3	42.5	37.1
仕事内容	63.1	46.5	55.1	53.1	44.2	59.4	58.9	62.6
職場の雰囲気	51.1	54.7	40.8	36.3	55.2	36.1	46.6	48.9
仕事の社会的意義	11.6	13.7	19.8	15.5	16.1	11.7	17.5	11.8
事業や雇用の安定性	25.8	27.3	31.6	25.5	35.1	23.0	26.4	24.5
将来性	26.8	34.5	38.6	36.7	43.0	25.5	36.6	28.3
専門的な知識や技能を 生かせること	19.0	22.8	26.7	19.3	26.8	21.1	20.7	20.8
能力を高める機会があること	17.3	23.7	29.1	28.9	33.0	25.1	27.3	19.9
自分を生かすこと	25.4	25.2	31.3	26.4	20.4	19.0	23.6	35.3
自分の好きなことや 趣味を生かせること	27.2	36.8	33.2	25.3	41.8	26.5	43.4	31.2
その他	1.9	2.3	1.2	0.5	1.7	0.3	0.5	1.2
わからない	6.7	5.8	4.7	6.1	2.8	4.2	4.5	5.7

(2) 働くことに関する不安

「働くことに関する現在または将来の不安」について、日本の若者で、「不安」又は「どちらかといえ
ば不安」と回答した者の割合が最も高かったのは、「十分な収入が得られるか」の77.1%であり、次い
で高かったのは、順に、「働く先での人間関係がうまくいくか」の76.0%、「老後の年金はどうなるか」
の74.2%であった。(図表27)

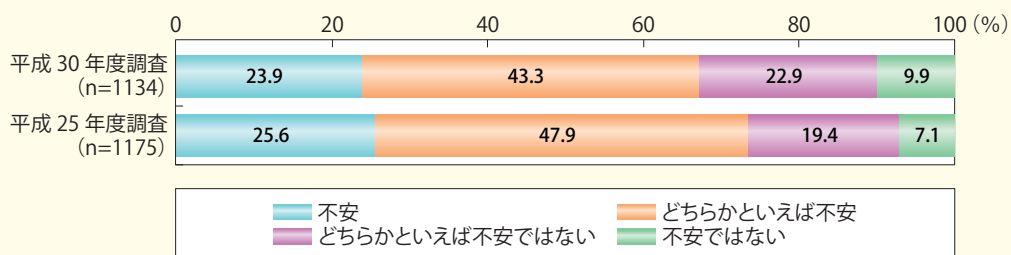
図表 27 働くことに関する現在又は将来の不安



「社会の景気動向はどうか」との問に、日本の若者で、「不安」又は「どちらかといえば不安」と回答した者の割合は、平成25年度の調査時より6.3ポイント低かった。(図表28)

このように、社会の景気動向に不安を感じている者の割合は、平成25年度の調査時と比べて低下していた。

図表 28 社会の景気動向はどうか (前回調査との比較)



4 学校関係

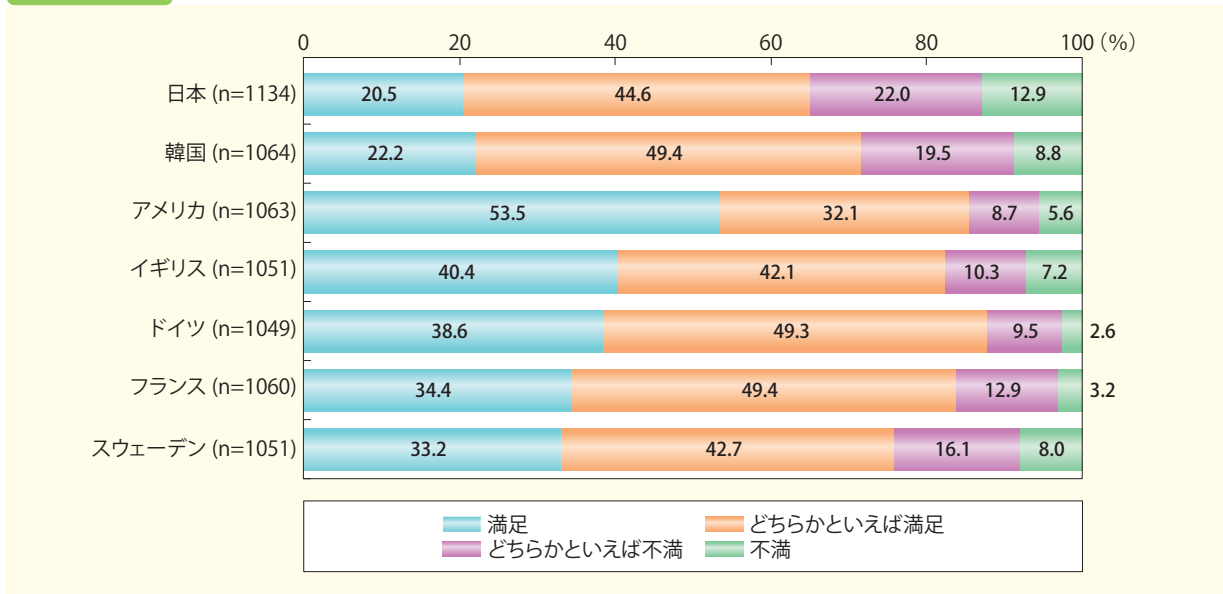
(1) 学校に通う意義・満足度

「学校生活に満足していますか、それとも不満ですか」⁹との問いに、日本の若者で、「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答した者の割合は65.2%であり、同様の回答をした諸外国の若者と比べて最も低かった。(図表29)

また、学校に通う意義について、日本の若者で、「意義があった/ある」又は「どちらかといえば意義があった/ある」と回答した者の割合が最も高かったのは、「一般的・基礎的知識を身に付ける」の80.4%であった。次いで高かったのは、順に、「学歴や資格を得る」の72.7%、「自由な時間を楽しむ」の72.7%、「友達との友情をはぐくむ」の70.5%であった。(図表30)

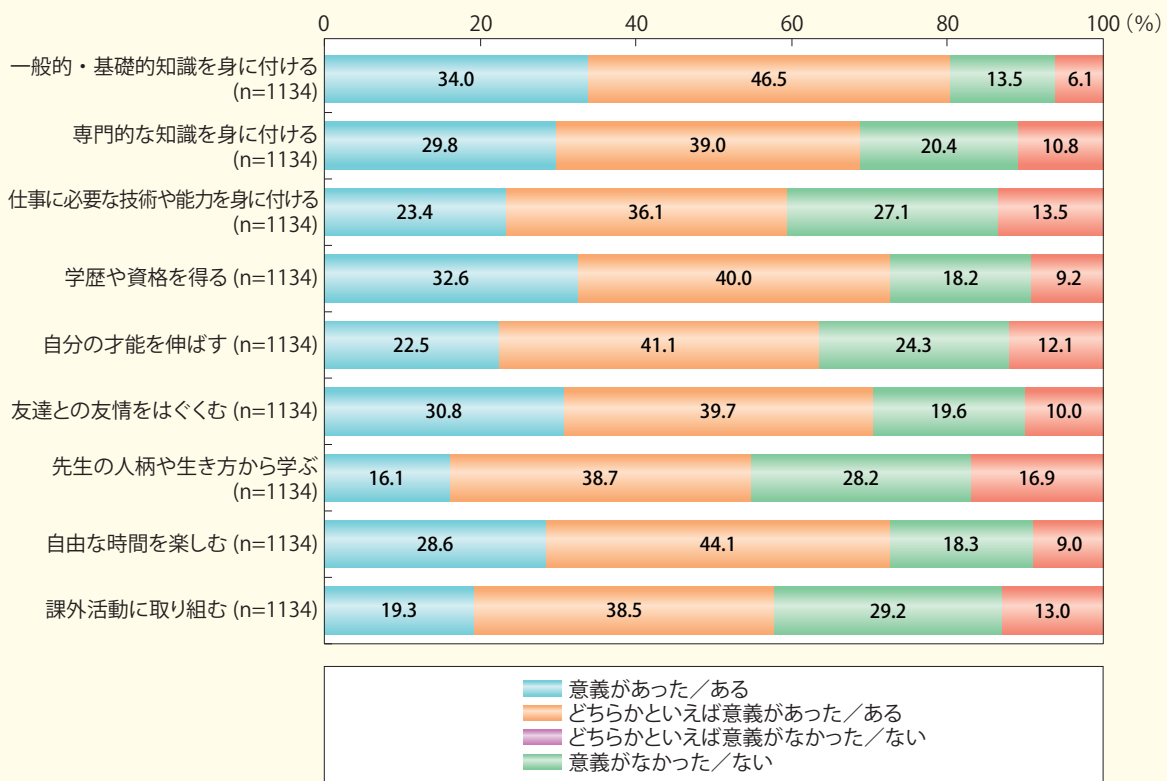
このように、日本の若者は、学校に通う意義を認める者の割合はある程度高いのに対し、学校生活に満足を感じている者の割合は、諸外国の若者と比べて最も低かった。

図表 29 学校生活の満足度



9 学校に行っていない方は、学校に行っていたときのことを回答

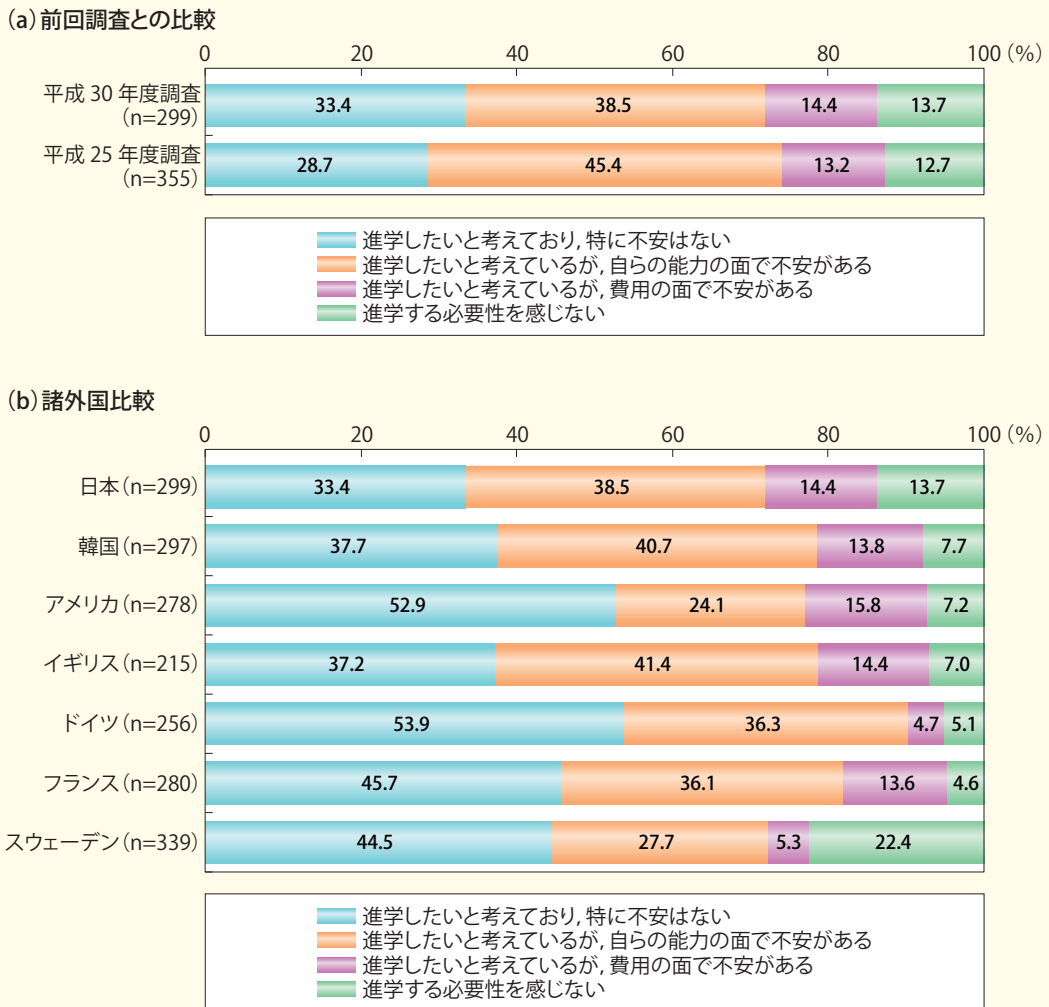
図表30 学校に通う意義



(2) 進学や費用負担

中学校又は高等学校に在学中又は休学中の者のうち、「大学など（高等教育機関）への進学」について、日本の若者で、「進学したいと考えており、特に不安はない」と回答した者の割合は33.4%、「進学したいと考えているが、自らの能力の面で不安がある」と回答した者の割合は38.5%、「進学したいと考えているが、費用の面で不安がある」と回答した者の割合は14.4%、「進学する必要性を感じない」と回答した者の割合は13.7%であった。（図表31）

図表31 大学など（高等教育機関）への進学について

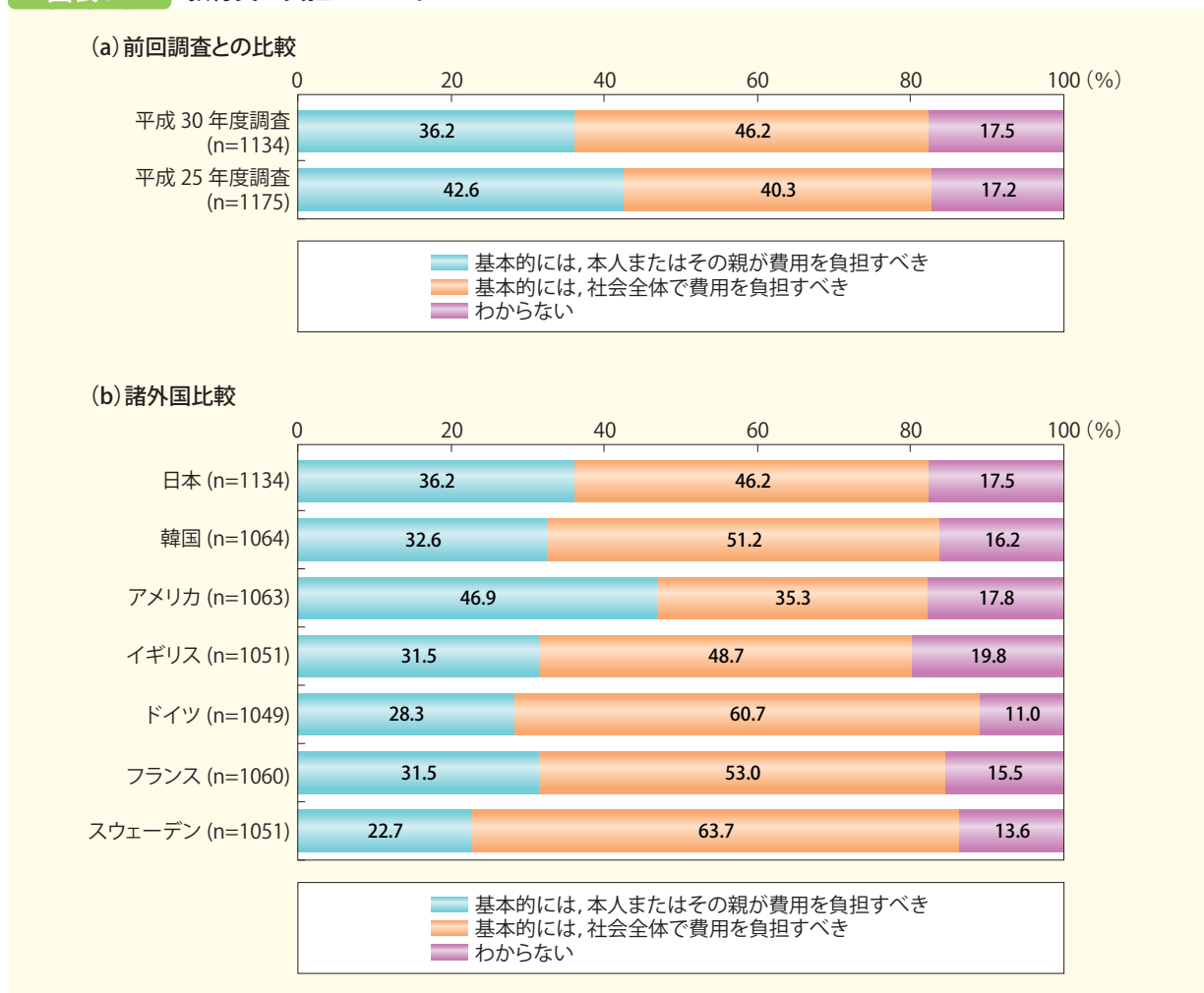


また、「教育にかかる費用を負担すること」について、日本の若者で、「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」と回答した者の割合は46.2%、「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべき」と回答した者の割合は36.2%であった。「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」と回答した日本の若者の割合は、スウェーデン、ドイツ、フランス、韓国、イギリスに比べると低いが、アメリカよりは高かった。

平成25年度の調査時と比べると、「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」と回答した者の割合は5.9ポイント高く、「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべき」と回答した者の割合は6.4ポイント低かった。

このように、日本の若者の中では、平成25年度の調査時と比べて、教育にかかる費用を、本人やその親ではなく社会全体で負担すべきであると考える者の割合が上昇していた。(図表32)

図表32 教育費の負担について



おわりに

今回の調査により、日本の若者は諸外国の若者と比べて、自分自身に満足していたり自分には長所があると思ったりするなど、自身を肯定的に捉えている若者の割合が低い傾向にあり、こうした自己肯定感の低さには自分が役に立たないと感じる自己有用感の低さが関わっている点に、諸外国の若者にはみられない日本の若者の独自性がみられること、日本の若者で外国留学や外国居住を望む者は諸外国の若者と比べて少なく、国際社会で必要な素養を身に付けていると考える者も多くはないが、ボランティアの経験者や自分自身に満足している者の中には外国留学を希望する者が多いことなど、日本の若者の意識について様々な特徴を明らかにすることができた。

こうした調査結果が、今後の子供・若者の育成支援に関する施策の検討に鋭意活用され、関連施策の充実に役立てられるよう期待したい。